

海の事故ゼロキャンペーン

海の事故ゼロキャンペーンとは

海難を防止するためには、船舶所有者、運航者をはじめとする海事関係者、漁業関係者、マリンレジャー愛好家など、船舶運航に直接関わる方はもとより、海運、漁業活動の恩恵を享受している国民の皆様にも、海難防止について関心を深めていただくことが極めて重要です。このため、「海難ゼロへの願い」をテーマに、海難防止思想の普及及び高揚を図ることを目的とした海の事故ゼロキャンペーンを7月後半の16日間実施します。

海の安全情報

海上保安庁では、全国各地の灯台などで観測した気象・海象の現況、海上工事の状況などの情報を「海の安全情報」として提供しております。「海の安全情報」は、パソコンやスマートフォンなどで誰でも簡単に利用することができます。

スマートフォン用サイトの表示

スマートフォンなどのGPSの位置情報により、現在地周辺の気象・海象の現況、緊急情報などを地図画面上に表示することで、簡単に必要な情報を利用することができます。

緊急情報・注意情報

気象警報・注意報等のアイコンをタップすると気象警報が発令する気象情報・注意報を確認できます。

気象現況

気象現況のアイコンをタップすると「現況、海象等の数値等」を確認できます。

海域情報

海域の図形をタップすると船舶事故が多発する海域などの情報を確認できます。

海難防止に係る安全規制情報等の表示

全国的に共通する情報
海上保安庁等が提供する情報(対応情報)
※さらに表示部をタップすると詳細情報が表示されます。

緊急情報

緊急情報のアイコンをタップすると船舶の航行に影響のある緊急情報が確認できます。

現在地の海難

現在地の海難・被害を表示します。

2025 7/16-31 海難0への願い
A Hope for Zero Marine Accidents

2025 ミス日本「海の日」賞 高橋 彩乃

令和7年度海の事故ゼロキャンペーン ポスター・リーフレット
モデル：2025ミス日本「海の日」 高橋 彩乃（たかはし あやの）さん

重点事項 1 小型船舶などの海難防止
Prevention of Marine Accidents for Small Vessels

エンジントラブルが多発しています!!

プレジャーボートの海難で一番多いのがエンジントラブルです。エンジントラブルを防止するため、以下の事項を励行しましょう。

1.適切な発航前検査の実施

燃料、エンジンオイル、バッテリー、冷却水などの検査を確実に行い、安全運航を心がけましょう。
また、家族やマリーナ等に航海予定を伝え、万が一に備えましょう。

2.整備事業者等による定期的な点検整備の実施

「中古艇」は特に点検整備が重要です。整備事業者等に依頼し事故防止に備えましょう。

重点事項 2 見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進
Thorough lookout and promotion of communication between vessels

なんといっても見張りが重要です!!

海難で一番多いのが衝突であり、原因は「見張り不十分」や「不適切な操船」が多数を占めています。

1.常時適切な見張りの徹底

「居眠り運転」や自動操舵任せで見張りをおろそかにせず、常時適切な見張りを行います。

2.船舶間コミュニケーションの促進

次により、早期に船舶間の意思疎通を図り、適切な操船を行います。

- 早めに相手船にわかりやすい動作をする
- 国際VHFや汽笛信号などを活用する
- AIS情報の活用と正しし情報の入力

3.漁ろう中の船舶との衝突防止

漁ろう中の船舶は不測の動きをする場合があることから動静に留意し、早期かつ大膽な避航を心がけましょう。

重点事項 3 ライフジャケットの常時着用など自己救命策の確保
Securing of self-rescue measures such as wearing a life jacket at all times

万が一、海に転落した場合、

- ①浮力の確保
- ②連絡手段の確保
- ③速やかな救助要請

という3点が必要不可欠です。

ライフジャケットの常時着用
防水バック入り
携帯手段の確保
緊急通報時の有効活用
118番

海上保安庁では陸上や陸路に障害を持つ方を対象に、スマートフォンなどから入力操作で緊急通報が可能となる「NET118」というサービスを活用しています。

重点事項 4 ふくそう海域などの安全性の確保
Be cautions about dragging anchor under bad weather condition

台風など接近の際は早め早めの対応を!!

走錨に起因する事故防止のために、経営トップから現場まで一丸となった安全管理体制の確保による走錨対策が重要です。

1.船長、運航管理者などへのお願い

- 「自船が走錨を起こさう」という認識の下、危機感を持って事故防止に備えましょう。
- 最新の気象・海象情報を入力し、時間的余裕を持って避錨を開始しましょう。
- 走錨の可能性を把握するため自船及び周囲の船舶の錨泊状況の監視など、適切な対応を実施しましょう。
- 主機関・スラスターなどを直ちに使用できる状態にしましょう。

2.荷主企業などへのお願い

- 船舶が時間的余裕を持って他の海域に避錨できるよう、荷役計画の変更など柔軟な対応をお願いします。

JAPAN COAST GUARD